

表わすことになる。

7. おしまいに

以上は実用的にと考えて、かなり大胆にいろいろな仮定を設けており、また結果の検証も十分でないので、いろいろと不備な点があると思われる。また、この図表を作るにあたって用いた基礎資料も筆者の不勉強からよりよいものを見落しているかも知れない。大方の御批判を願う。

いろいろと御指導をいただいた横浜地方気象台の久保時夫台長及び磯崎一郎予報官ならびに貴重な資料を利用

させていただいた三人の方に深く感謝いたします。

参 考 文 献

- 久保時夫・磯崎一郎, 1958: 新しい波浪予報法とその実験的手順 (II) 東京管区気象台, 波浪予報講習会資料.
 横浜地方気象台, 1957: 台風によるうねりの予報手順について, 関東甲信地方予報検討会資料.
 久保時夫・磯崎一郎共訳, 1955: 太平洋の波の新しい予報法, 気象協会刊 (限定出版)

「支部だより」

昭和 34 年度東北支部気象学会地方会開催について

本支部学会地方会は昭和34年10月28日青森県浅虫温泉帰帆荘にて青森・秋田地区気象研究会と合同して開催された。講演題目は総数16, 東北大学山本教授の特別講演もあり討論も盛んで有意義な会であった。唯気象官署職員以外のお出席者が山本教授, 大西助教授の2名だけであった事は淋しいと思う。支部会員多数のお出席を望みたい。発表題目および発表者は次のとおりである。

- (1) 秋田県における低気圧による大雨の二つの型について (中間報告) 秋田 小林 一雄
 (2) 6月15日の青森県三八地方の降雹調査 八戸 草薙 次郎
 (3) 青森県地方の凍霜害時の解析について 青森 田中 喬
 (4) 西海岸における高潮および波浪について 深浦 菊地 二郎
 (5) 北日本を通過する際分裂する低気圧と東北地方及び秋田県の雨量について 秋田 酒井 一
 (6) 青森県沿岸の海霧とその予報 青森 真下 宏一
 (7) 八戸港内波浪調査 八戸 二部 浜男
 (8) 青森県における雷害とその予報について(その2) 青森 百足 虎治

- (9) 青森県に影響を及ぼした台風について (風) 青森 星 啓介
 (10) I G Y 高層ゾンデ観測のメモ 秋田 箱田 顕雄
 (11) 八戸地方における南海低気圧について 八戸 渡辺 象吉
 (12) 台風14号による高潮について 秋田 牧田 三雄
 (13) 青森県沿岸の海難について 青森 石橋 辰作
 (14) 微動の消長とサイスマシテーター 秋田 渡辺 貢
 (15) 宮城県及びその周辺をモデルとした雨雪の限界とその予報 仙台 山下 洋
 (16) 山越えの気流——模型実験の考察—— 東北大 大西 外史

特別講演

気象輻射学の最近の進歩

東北大学教授

山本 義一

気象台関係者の発表のうち特に興味のある有益な論文は渡辺貢氏の微動の消長とサイスマシテーターであった。此論文は気象ではなく地震に属するものであるが、地震予知に関する有力な指針を与えるものとしてそのアイデアに大きな興味がある。又酒井一氏の論文は雨の予報上重要な貢献をするもので勢力的な調査である。(内海 記)